



後
書
卷
第
四

特
遠近
876
4





全左衛門又同五人の人代殺は汝おいにして殺せし事。高人善へく恨りしを
 ねり入一まゝを成はぬいを愛死するもの。其人孔時よむて。かし梅の昔と志
 ろくおろと逢るぬらうてお伊りさうらう。終つたう小院の種は高よ。あつた
 届けとどおい。あ中お。かさうらう。神功寺ふ云傳して。多し百両は。おの
 ひとら。いりと思は。形は。情て。己方の。後。白く。おの。ま。全左衛門。法。慈。して。ま。う。と
 係り。彼。老。の。云。屋。神功寺。とい。何。比。さ。う。人。守。り。も。と。け。お。お。云。ま。去。を。回。轉
 廻。ら。ら。に。山。陰。よ。二。宮。の。寺。あり。け。所。よ。も。と。ま。あ。え。れ。が。神功寺。の。願。あり。と。い。り
 高。吳。が。い。ひ。に。遠。が。と。案。内。と。も。和。尚。に。面。會。して。夕。邊。の。い。づ。も。あ。ま。さ。に。これ。に
 和。尚。も。あ。り。て。お。い。さ。う。に。い。は。れ。彼。お。着。け。け。寺。の。因。由。と。あり。ぶ。道。に。は。後。と。

机程の拙と形りし。悪まの。と。お。に。い。は。り。て。其。廢。宅。よ。ね。お。明。く。あ。り。を。ま。え
 後。お。い。と。ら。ん。と。亦。お。ま。ら。お。里。人。も。お。行。ら。ひ。和。尚。全。左。衛。門。法。慈。も。お。の
 廢。宅。よ。ま。え。り。人。と。ま。ま。て。右。井。以。さ。う。に。白。骨。二。つ。逢。ま。よ。い。ま。う。と。い。出
 せ。り。け。お。里。人。も。初。り。て。金。右。衛。門。が。何。故。に。行。補。下。に。う。が。ら。う。に。お。り。た。ら
 毛。終。つ。た。包。こ。て。全。二。百。兩。海。出。さ。う。と。の。く。高。吳。の。お。り。ひ。と。ま。し。白。骨。等。お
 持。り。人。并。よ。推。柳。以。洞。へ。納。傳。は。ま。え。り。終。極。體。は。は。し。息。よ。吊。ら。ひ。和。尚
 引。導。す。り。寺。中。お。理。ゆ。と。も。お。の。百。兩。全。左。衛。門。お。あ。へ。ん。と。ら。う。全。左。衛。門。い。と。う
 た。と。高。吳。百。兩。お。あ。へ。ん。と。ら。う。と。い。て。も。い。う。て。人。に。ま。り。と。ら。ん。百。兩。の。さ。に。お。く
 ら。と。お。の。え。よ。あ。ま。り。は。金。斗。り。わ。ら。も。ま。ま。は。し。と。ら。う。和。尚。も。お。り。人。も。お。り。

過去の物語
 北の去人
 不義乃
 男を殺す



北の去人

掃ひまぐくは通る下とくしと六多の間へ通せば供とりの衣に抱へたるかの
 侍る人奴道く招きそふの場は地を多年まは守り奥家老壽福有重
 と申老形はは奥方御留る市出証にたとなたまごもいすこ乳の人と抱へ
 たまひす幸田の助の内室は安産ありかど小児の死失のははる取
 阿松が乳に知るる今日より若殿の乳の人と形りて乳とそとらふ
 左ら形より奥方より下とれりれ載ありておぼしと度蓋に目強り
 教を出とよ小使三重美金三十枚巻物十本とありまぬい友の死
 久に保と思はず魚又合てありるる有右の行に小児の死失とりて
 殿の早世かふし奥方の教とれもいえとほくとお疾しとまげ行はぬ

いと若殿ふは世事成候る候る限は有右申かおぬて申助も二十人
 扶持あり今日より市役の心番作付らるる是下ととお頂戴ありと下大
 小小使着候のせては出はるる衣白形は西人若殿の西身の上一生に
 此世に引かき書候へん然世の平王は出せばまぬ引かき持へ竹が
 御本ぬぬいふに外いたととと世に血列を揮て有右申に及せ有
 又回先上候かお招き其方を止の身人ふと白後母と教ひまはし殿
 五十人扶持下るはしりつるまはめは有右申に及せ有
 御本ぬぬかたるそれよりおひまぬぬに歩まらぬ申助も大小を
 教ひ引連場候はして出候る

○ねえ湯罪成乃て幸小進治

おし中間松玄坊の福家寺の門前に酒成多々香てそ後もあは伏居
 けろがよ又其旨の成るを甲助おうもをとくそを王治らんと記とるを
 之仰り中間の成へ解へる回へ助おうぬ盡て番通に系成解り福家寺の
 門前より多酒成天にせそ後も己れまえぬ狂酔しあま人の来ぬるなりて
 此代系の酒成おまをんとを口にし解下所が深りふいと解られぬ其方
 も大ひは移るそあへて退る成けぬとと救方より解りて下りるを
 ごとくも解りて冷方解り止る中間松玄坊の志はらく大級屋に解られ
 し酒に酔てあ人の出奔成あつらる深りて屋敷に退拂をえり

あるはゆめさしの風呂敷はけり成賢屋は出さるる歌の老人
 形をへ行解りてあはれば松玄坊の系播加多砂の産おまどもたよりを
 親おもねまをさうくと大坂まで下りる解るに風中田を助るのとありし
 我身とせせらる由へ彼成穿るふいあねども折助のたまふ人ふも
 ふる者らに抱えり人はい彼に信成成との行まの屋敷へもあは
 戸にとまわぐあ人の有る成成りともあつてもねるを二つある金
 大坂をきひて信人かたねいなるもさる長所の前拂もかきし室の
 着あも着伊のたりに賣拂今へ在るの雲隠小舟なる菰成りしを
 ましは信吉街道成右左と信成に付て二指二指成てて天傘成つはじ



山崎闇斎

山崎闇斎

松尾清光くく... 情教所のいひ... 鄙至耳小も... 死人とわりの... たまふとも... ぬの人の... 城をまじて... 福い其人の... 己も... たりとも...

松尾痛る... 明神へ... 酒下... 於唯... 酒の五合も... 及び...

流一素入まが仕海一なりとぬと返して侍小立退右通具屋へ持付る二三石
 又い庭に遊ぶに有難しと願く後ふらふらう下戸の中間侍に伏し乞せ
 魚とるがくくとをまきて来て願くふと。夫は主人のと見ゆあるとて
 いらとまよて終小ねを請ひましり。搦手取返し返一々うけ時にねを信い
 ましらる。料理茶屋の内庭に引とられてつらる。はらうとれりよおる
 おせどもそ報へおく。生涯初りて悪成るとも忽ちの生捕と生捕成ると
 かく悪の報の早くばとて乞せ。昔の報あうとらう。個にきて居る
 けり。時は一問に答う。て主人のと見成捕へ。とや。今日若殿様所とや
 まりの西に後らる。はらう。其若行成。是れ。と。冷未申と年のころ

三十小退と侍の衣後大小立流わが其と見とて引出とてと中庭へ
 引出海敷候とす。と。はらう。ねま請ひ。と。げ。魚。成。う。あ。け。同。成。と。て。其。人
 成。る。に。見。ふ。人。う。す。千。所。田。も。助。お。り。是。い。う。ふ。と。作。天。を。れ。田。も。助。し。も
 と。つ。て。其。え。い。中。間。の。ね。ま。請。は。ら。う。と。互。に。あ。を。れ。て。行。し。出。さ。り。し。が。田。も。助。の
 侍。の。老。に。い。や。う。け。と。見。成。と。と。老。に。あ。ら。び。を。成。候。は。老。成。知。ま。う。海。水。の
 退。だ。て。酒。成。を。言。べ。し。と。う。く。成。遠。を。お。お。心。身。い。く。お。り。伏。し。乞。せ。と。見。成。の
 ね。ま。請。は。ら。う。と。見。人。を。出。さ。ぬ。日。も。も。つ。ら。う。の。面。會。と。ら。う。の。娘。と。と。見。成。の
 人。を。出。て。早。く。見。人。に。成。た。ま。う。ら。た。真。う。の。後。に。後。孫。孫。備。成。り。よ。と。い。ひ。て
 と。出。る。女。の。子。お。り。る。人。ね。ま。請。は。ら。う。と。と。ら。う。の。成。り。と。と。見。成。の。娘。成。り。よ。と。い。ひ。て

幸物言卷之四

十三

見もきく小書しゆまの姫とよけまは身のおうのうとて只まぬ
 身なりしかきく屋敷と十日目にまじくおつ侍らふおつ姫は殿にま
 めおつ石出れ若殿の御乳人とおつま田く助も只今ふては陰一助のま
 おつ侍らふおつ身のおまを小侍といはねま坊屋いふおつひいとま
 目ともあらぬに目にくるまをまぬくはるまといおつるふてと見と
 下目け言人の心身するは世滅の流名をまふまふととどくも不
 まこるまがねま坊おしよと西成上ま敷る辰の屋敷は進拂と
 一の心身ま坊屋出まふと世に侍らふおつまはまのまふては
 して眼とも思ふおつ身まふま敷小位たまつて中間の有海に侍人に

たのまんと方いぬぬとども終末おとす終よのを見とおつるまに
 負のまをまら中間の板屋おつて浦小若人と婚て悪ま
 生一と名と子くかく権目の恥ふまを西月まくとはしうつけ八回
 助ま坊の大ひま収む能もまをまふおつるおつるおつるおつる
 でおつ身おつ身おつ身おつ身おつ身おつ身おつ身おつ身おつ身
 ままひやうとておつ身おつ身おつ身おつ身おつ身おつ身おつ身
 坊あまをま坊とておつ身おつ身おつ身おつ身おつ身おつ身おつ身
 しては南打の一まおつらおつらおつらおつらおつらおつらおつら
 位一の料理まおつらおつらおつらおつらおつらおつらおつら



幸物譜卷之四
一、松を傍ハ六十五果、おねハ六十果、
一、家仲の忠告、
燈籠、
一、家仲の忠告、
燈籠、
一、家仲の忠告、
燈籠、



幸物譜卷之四

貝原先生著

大和俗訓

全五冊

古の及、必生躬の行ひをせしむ故、
衣服、
の始、
接、

初學訓

全三冊

夫人、
初、
夫、

文武訓

全三冊

士、
一、
を、

家道訓

全三冊

人の家、
一、
其、

樂訓

全三冊

或、
心、

右、
平、

平安書林

板、

